

# 審議会等の会議結果報告書

【担当課】 こども課（こども係）

会議の名称	令和元年度 第2回茅野市こども・家庭応援会議		
開催日時	令和2年3月23日（月） 19時～19時50分		
開催場所	茅野市役所議会棟大会議室		
出席者	委員：山田委員長、宮下副委員長、戸川委員、五味委員、小坂委員、大久保委員、篠原委員、櫻井委員（代理出席）、志津委員、矢崎委員、山田委員、篠原委員、大作委員、小林委員 事務局：山田教育長、有賀こども部長、五味こども課長、五味幼児教育課長、五味学校教育課長、井出地域福祉課長、柳澤健康づくり推進課長、北澤幼児教育係長、宮下こども係長、熊谷こども・家庭支援係長、有賀こども係主査、小坂こども係主査、小林こども係主任		
欠席者	伊藤委員、原田委員、中野委員、小野沢委員、金子委員、丸山委員		
公開・非公開の別	公開・ <del>非公開</del>	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
委員長	1 開会 2 委員委嘱 3 教育長あいさつ 4 会議公開の確認 5 会議事項 (1) 第二期茅野市子ども・子育て支援事業計画について (2) その他 6 その他 7 閉会  議事録  1 開会 新型コロナウイルスの影響で、学校の臨時休校、イベントの中止、地区こども館の臨時休館等、子どもの居場所が奪われている状況があるが、どんぐりプランの目指すものを思い、今こそ、地域で子育てを支え合えるよう地域の力を発揮してほしい。		
宮下こども係長	2 委員委嘱 主任児童委員の役員変更により、新たに委員に任命する。		
山田教育長	3 教育長あいさつ 保育園の卒園式に出席し、子ども達の成長を感じた。自分の子どもだ		

けでなく、まわりの子ども達を見つめるお母さんたちのまなざしに、お互いに支え合いながら子育てをしていく姿を見た。小中学校の卒業式では、リハーサルもなく規模縮小された式であったが、昨年と比べても遜色のない卒業式であった。

4月からの新学期を控え、学校、教育委員会ともに知恵を出し合って今回の新型コロナウイルスに関わる事態に対応している。学校では、家庭訪問、先生からの電話、先生と遊ぶ時間の実施、校庭の開放等を行っている。今までにない環境の中で、子ども達の家庭での生活が始まっているがこんな時こそ、みなさんの理解と協力をいただきたい。

#### 4 会議公開の確認

前回と同様に本日の会議を公開とし、会議録については市のホームページに委員名は載せず「委員」と表示してよいか。

→よい

公開とする

#### 5 会議事項

##### (1) 第二期茅野市子ども・子育て支援事業計画について

資料については事前に郵送しご確認いただいているので、要点の説明のみとしたい。

計画への意見徴収の場として、3月3日から23日までパブリックコメントを、また、2月に保育所運営審議会を開催しているが、ご意見等は無かったことを報告する。

1 ページ目、1 計画策定の趣旨として、本計画は子ども子育て支援新制度において市町村に策定が義務付けられた計画であり、第二期の計画としてどんぐりプランの中に位置けるとともに、次世代育成支援対策推進法に基づく計画の市町村行動計画として位置づけるものとする。

2 計画期間は、令和6年度までの5か年計画とし、どんぐりプランの中間見直しにあわせ、計画の見直しをすることもある。

3 事業計画として、まず量の見込みと確保方策の用語の説明をおこないたい。量の見込みはその事業に対してどのくらいの需要があるかをこれまでの実績やニーズ調査から算出している。確保方策は、見込みに対しての供給についての数値で、今後の施設等の設置予定を踏まえたものである。1 ページ下部の表では、今後の保育園についての計画を示している。教育、保育を必要と利用する子どもについては3つの認定区分が設けられ、これに沿って保育園、幼稚園、認定こども園である教育保育施設と、家庭的保育・小規模保育・事業内保育・居宅訪問型保育の地域型保育事業施設があるが、地域型保育事業施設は茅野市には該当がない。

2 ページ (3) 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保対策、①時間外保育事業とは延長保育のことで、量の見込み、確保方策ともに

委員長

五味幼児教育課長

過不足は発生していないが、職員の確保やニーズに応じて開所時間の見直しを検討したい。

②子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ）では、必要な時に必要な支援ができるよう調整を図っていききたい。

3 ページ③地域子育て支援拠点事業では、単位が「単位：人日」となっているが、これは利用人数かける利用日数を表すもので、延べ人数を示している。

④一時預かりでは、認定こども園での在園児を対象としたものと、保育園の未就園児を対象とした二つの施設について記載している。

4 ページ⑤病児病後児保育では、令和2年度から市の直営施設として運営を行う。

⑥子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）では、令和元年度から市の直営事業として運営している。複雑な事情を抱える家族からの依頼もあることから、関係機関との連携を行うとともに会員の質の向上に努める。

5 ページ⑦妊婦一般健康診査事業（妊婦健診）は継続事業。

⑧乳児家庭全戸訪問事業では、子育ての孤立化を防ぎ、地域の中で子どもを育成できる環境整備を進める。

⑨養育支援訪問事業では、特に支援が必要な状況に陥っている家庭等を対象に養育環境の維持・改善及び家庭の養育力の向上を目指す。

6 ページ⑩利用者支援事業では、「基本型」をこども課で、「母子保健型」を健康づくり推進課で実施している。

⑪実費徴収に係る補足給付を行う事業は継続事業。

7 ページ⑫多様な主体の参入促進事業では、3歳未満児のニーズ等様々な保育ニーズに対して民間事業者の参入があった場合には相談、支援、助言を行う。

（4）総合的な子どもの放課後対策の推進、①放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の令和6年度までの実施計画では、量の見込みについて、学年別に量の見込みを示している。

8 ページ③放課後子供教室の令和6年度までの実施計画について、茅野市では放課後子供教室は実施していないが、社会情勢の変化や地域の実情を踏まえたうえで茅野市の独自施設である地区こども館の活用を検討する。

8～9 ページにかけての④～⑩は、今後の子どもの居場所を検討していくことを前提に盛り込んでいる事業である。

10 ページ（5）子育てのための施設等利用給付の円滑な実施の確保は、令和元年10月から保育の無償化に伴う事業で、無償化制度の円滑な実施のため県と連携をとるものである。

4 教育と保育の一体的提供に関する考え方と推進方法（1）認定こども園の設置についての考え方については、令和2年度から聖母幼稚園が認定こども園に移行することもあり、今後、必要に応じながら地域の実情に応じ認定こども園への移行も視野に入れていくことを示している。

	<p>(2) 質の高い幼児期の学校教育・保育、地域の子育て支援の役割および推進方策については、保育所保育指針と幼稚園教育要領及び認定こども園教育・保育要領に基づいた各園の保育指針に沿った保育と教育を実施し、質の高い幼児教育を行うため、働き方改革をすすめながら保育士の質の向上に努める。</p> <p>1 1 ページ (3) 幼保小連携の取組の推進、(4) 0～2歳に係る取組と3～5歳に係る取組の連携に関することは、表記のとおり。</p> <p>5計画の推進では、茅野市たくましく・やさしい・夢のある子どもを育む条例の趣旨に沿って取組を進める。進行管理は、本会議と茅野市保育所運営審議会において確認・評価を行うこととする。</p> <p>1 2～1 3 ページは、第一期計画の実績である。</p>
委員長	<p>これまでの説明について、質問や意見はあるか。</p>
委員	<p>1 ページ (2) 幼児期の学校教育・保育の量の見込みと確保対策について、量の見込みに対して確保対策の量がマイナス「▲」となっているが、保育園に入れないということを計画の中で見越しているのか。</p>
五味幼児教育課長	<p>確保対策は各保育園の定員の合計となっている。1号認定については、対象となる施設である幼稚園と認定こども園が市内に2か所あり、そこが定員いっぱいの場合、特別利用保育として他の保育園での受入が可能となる。2号認定の対象となる施設は保育園と認定こども園となり、計画では659人の余裕があるため、1号認定の不足分288人を受け入れることを示している。</p>
委員	<p>マイナスという表記は計画書の数の示し方であり、保育園に入れないということではないのか。</p>
五味幼児教育課長	<p>入所希望を取った時に、入所調整が入る場合はあるかもしれないが、保育園に入れないということではない。</p>
委員	<p>1 0 ページ 4 教育と保育の一体的提供に関する考え方と推進体制 (2) 質の高い幼児期の学校教育・保育について、教育と保育の一体化は素晴らしいと思う。教育長のお考えをお聞きしたい。</p> <p>計画書の標記で「量の見込み」とあるが、市民感覚では人や場所を「量」とするのは違和感がある。違う表記に出来ないか。</p>
山田教育長	<p>子どもの成長は連続している。保育園、幼稚園と施設は違ってもその後は小学校に入学することとなる。そこを見越して、茅野市では平成16年から玉川保育園と玉川小学校をはじめとして市内全域で幼保小の連携を始めた。幼稚園、保育園、小学校の接続カリキュラムとして、保育園児が小学校に交流に行くアプローチカリキュラム、入学直後の子どもを</p>

	<p>支えるスタートカリキュラムを実施している。また、子どもだけでなく、教員の保育士体験や保育士の学校研修等、同じ子どもを取り巻く大人の連携も図っている。小学校と保育園の交流では、交流が一時的なイベントとならないよう、例えば、焼き芋会ではなく、さつまいもを植え育てるところから交流を行うなど、継続的な交流を心がけている。この接続カリキュラムは全国的に評価されているが、まだまだこれからだと思っている。</p>
五味幼児教育課長	<p>本計画は策定が国から義務付けられているものであり、盛り込むことが必要な項目は国から示されている。そのため、表記が国から示されたものとなっており、他市町村も同じ表記となっている。</p>
委員	<p>国のフォーマットであることは理解できるが、市民感覚とはかけ離れている。今後、検討してほしい。</p>
委員	<p>2ページで保育士不足が顕在化しているとのことだが、保育士の業務内容の軽減や人材確保について検討はされているのか。</p>
五味幼児教育課長	<p>保育士業務の負担軽減として、県下初の保育園への事務職員の導入や、主任保育士のフリー化等、保育士が疲弊感を感じないような対策を考えている。人材確保については、都市部での保育士不足のため新卒の保育士がそちらへ流れてしまうので、地元での就職をしてもらえるよう、来年度は重点的に検討したい。</p>
委員	<p>保育園だけでなく、学校も先生が疲れてしまう。同様に対策を検討してほしい。</p> <p>保育士の人材確保について、茅野市は採用時の市民要件（住民票）がないため広く人材募集できていいと思う。</p> <p>おやすみ館の様子は文面だけでは分からない。実際に見てみたい。</p>
五味幼児教育課長	<p>今回の会議の際、会議前に現地見学できるよう計画してみたい。</p> <p>3月20日の内覧会の際は60名の参加があった。親の見学もあり、関心の高さを感じた。また、利用時間も16時までが18時までとなる事や、感染症別に対応できる施設となっているので、安心して利用してもらえると感じている。</p>
委員	<p>13ページのファミリー・サポート・センター事業について、実績数とは会員数のことか。</p>
五味こども課長	<p>実児童数は年間の延べ人数となっている。</p>
委員	<p>実績数をみると依頼側（実児童数）の増加がある。協力会員は足りて</p>

<p>五味こども課長</p>	<p>いるのか。新型コロナウイルスの影響で、利用が多くなった時に対応できるのか。</p> <p>今の所、ニーズへの対応は出来ている。事業については依頼会員、協力会員双方のPRに努めている。また、新型コロナウイルスの影響は現時点ではない。</p>
<p>委員長</p>	<p>(2) その他 ご意見、質問等あるか。</p>
<p>委員</p>	<p>ギフテッド教育がどんなものなのか、進み具合はどうかお聞きしたい。</p>
<p>山田教育長</p>	<p>ギフテッド教育は、昨年8月に市長から提案のあったもので、その後、教育委員会でギフテッド教育の先進地視察を重ねてきた。</p> <p>ギフテッド教育に定義はないが、茅野市では、全ての子どもに学ぶ機会を与え、その子の能力を伸ばしていくことを目指した教育のことを指している。多様な学びを支えるためのものである。4月以降、教育関係、福祉関係等様々な専門家を集めたプラットフォーム会議を開催し、そこで内容等をもんでから、夏休み頃に方向性を示していきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>6 その他 意見等あるか →なし</p>
<p>副委員長</p>	<p>7 閉会</p>